

グラフと絵で見る食料・農業

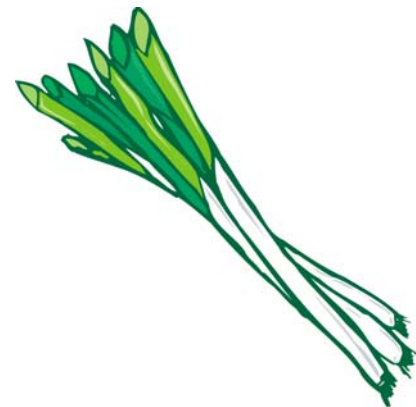
ー統計ダイジェストー

統計部

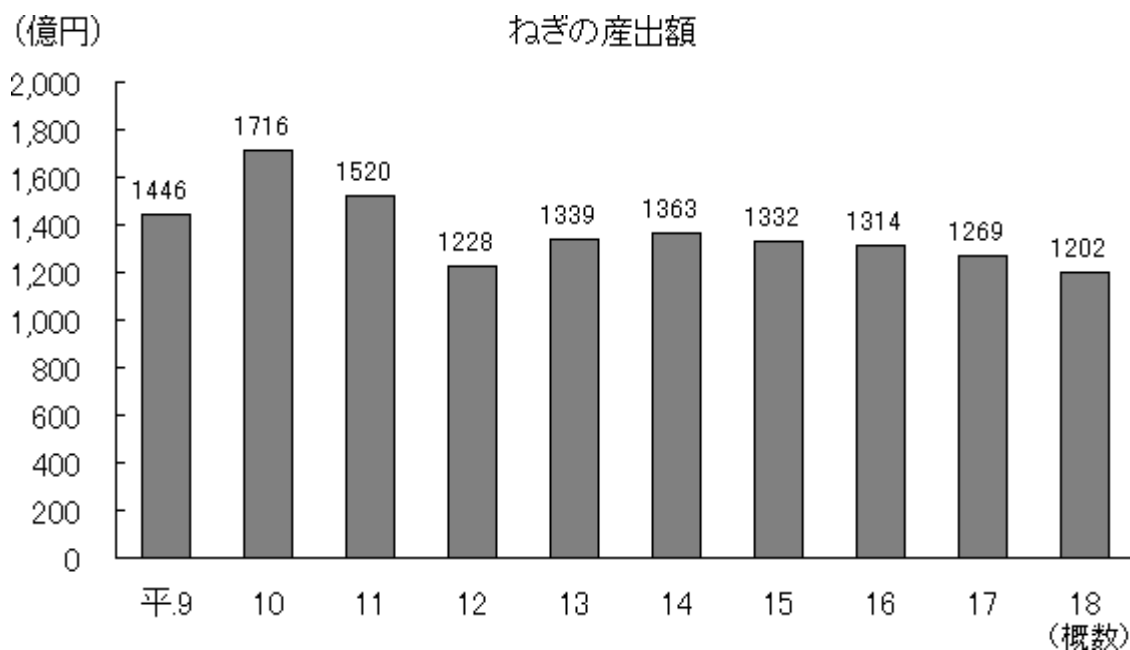
[トップページへ](#)

5 ねぎ

- (1) 産出額
- (2) 作付実農家数
- (3) 作付面積・収穫量の動向
- (4) 卸売価格の動向
- (5) 輸入量の動向



(1) 産出額



資料：農林水産省「平成18年農業産出額（都道府県、市町村別）」

平成18年のねぎの産出額（概数）は1,202億円で、前年に比べて67億円（5.3%）減少しています。

[トップへ](#)

(2) 作付実農家数

平成17年のねぎの作付実農家数は全国で15万5千戸、都道府県別では千葉県が最も多く、次いで福島県、茨城県となっています。

資料：農林水産省「2005年農林業センサス」

注1：農家数とは、販売目的で野菜を作付けした農家数をいう。

注2：露地栽培または施設栽培によりねぎを作付けした農家数である。

[トップへ](#)



一口メモ…ねぎの由来

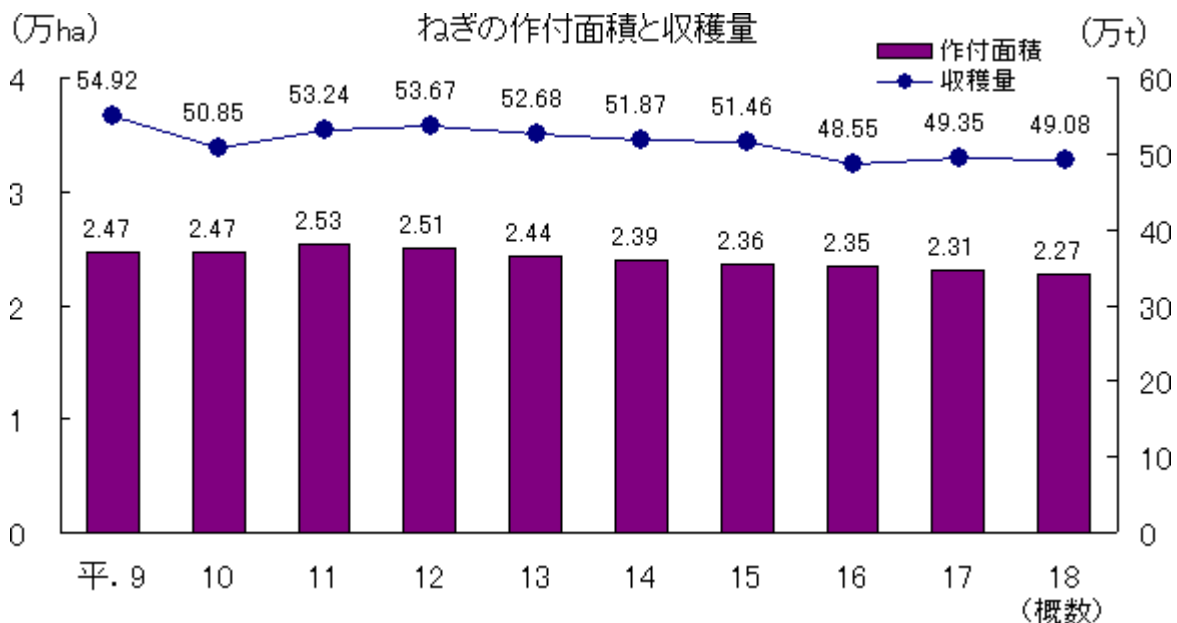
ねぎの原産地は、中国西部とも中央アジア北部ともいわれています。

中国では、3000年も前からねぎが栽培されていました。そして、日本へもたらされたのもかなり古く、奈良時代以前から栽培されており、「日本書紀」（8世紀）には「葱」の文字がみられます。

もっとも、古代には神事や祭事の時に、神に捧げる野菜として使われていたようです。

[トップへ](#)

(3) 作付面積・収穫量の動向

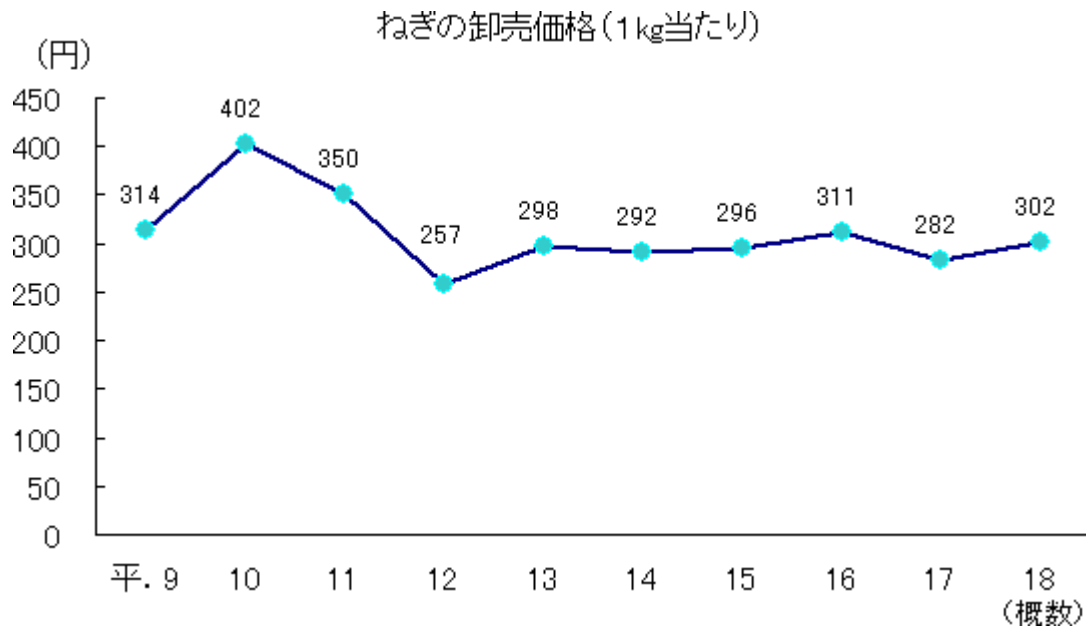


資料：農林水産省「平成18年産秋冬野菜等の作付面積、収穫量及び出荷量」

平成18年産ねぎの作付面積は2万2,700ha、収穫量は49万800トンとなっています。

[トップへ](#)

(4) 卸売価格の動向

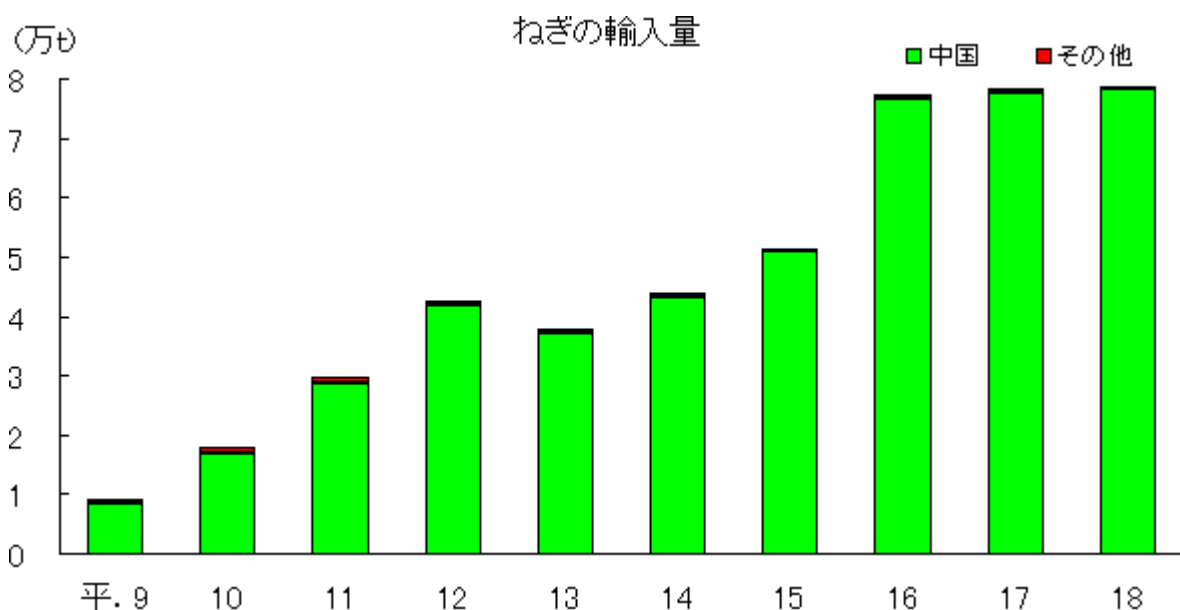


資料：農林水産省「平成18年青果物卸売市場調査結果の概要」

平成18年のねぎの卸売価格（概数）は1kg当たり302円で、前年に比べて20円（7.1%）上昇しています。

[トップへ](#)

(5) 輸入量の動向



資料：財務省「貿易統計」

平成18年のねぎ（リーキを含む）の輸入量は1万8,700トンとなっています。
ほとんどが中国（99%）からの輸入です。

[トップへ](#)



一口メモ…関東の根深ねぎ、関西の葉ねぎ

現在、日本のねぎは大きく分けて、根深ねぎ（太ねぎ、白ねぎともいわれます）と葉ねぎ（細ねぎ、青ねぎともいわれます）の2種類があります。根深ねぎは、葉鞘部を土寄せ、軟白し、その軟白部を利用するねぎで、葉ねぎは土寄せ、軟白をせず、よく株分かれ（分けつ）した緑葉を利用するねぎです。

ところで、昔から根深ねぎは関東で多く栽培され、葉ねぎは関西で多く栽培されています。その理由は、根深ねぎは中国北部で生まれた太ねぎの流れをひいているため寒さに強く、葉ねぎは中国南部に由来しているため暑さに強いからです。また、土質の違いも関係があり、根深ねぎは土層が深く砂質であり、地下水位が高い関東の方が作りやすく、耕土が粘質で土寄せしにくい関西では、葉ねぎを作りやすいというわけです。

しかし、現在では、これらの枠にとらわれず、各地でさまざまなねぎが作られているようです。

[トップへ](#)